

○靜岡縣令 十七年七月廿二日

本年一月太政官第五号ノ旨ニ月俸規則第三條ニ時賜金  
信子ノ儀御達相成處ノ前滿年賜金信即例實施ノ  
旨ニ依前ノ用支給スル旨御達ノ趣有之然ル以前  
ヨリ利任官ニ轉任セシメノ明治十五年一月御首乙第号  
申達已前ニ係リ滿年賜金ノ打切支給又ハ一我ニ後故將  
々已前ニ係リ滿年賜金ノ消滅ニ屬シ假スト相成得可  
此科

内務省指令 十七年七月十七日

書面以前奉職中ノ滿年賜金他日他官又ハ死去等ノ  
際打切支給スル旨ト可成得可

但該賜金本年第五号公達ヨリ大抵一申出



齊

臺灣事務局總裁具申臺灣島ニ文武ノ  
職ヲ奉スル者事平定ニ至ルマテ外征從  
軍者トシテ取扱ノ件

右謹テ奏ス

明治二十八年八月一日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

三十四下



易甲三十七

明治二十八年七月二十九日

内閣總理大臣 甘文

法制局長官

外務大臣

伊

大藏大臣

大藏

海軍大臣

文部大臣

伊

逓信大臣

恩

内務大臣

若

陸軍大臣

若

司法大臣

正

農商務大臣

農

農務大臣

成

別紙臺灣事務局總裁具申臺灣島ニ文武ノ職ヲ奉スル者事平定ニ至ルマテ外征從軍者トシテ取扱ノ件ヲ審査スルニ日清間ノ平和既ニ回復シ臺灣島

手書

法制局



ノ受渡完了シタル今日ニ於テハ臺灣  
島ハ固ヨリ既ニ帝國ノ版圖ニ屬スト  
雖條約批准交換後二年間ハ其ノ土民  
ハ未タ純然タル帝國ノ臣民ト云フコ  
トヲ得サルノミナラス數多ノ清國ノ  
殘兵險要ノ地ニ據リ土民ト相合シテ  
頑固ナル抗敵ヲ為シ形勢恰モ一敵國  
ノ如ク今後尚幾多ノ戰鬪アルコトヲ  
免レサルヘシ而シテ是皆日清戰爭ニ  
伴フノ結果ナルヲ以テ事實上之ヲ外

征ト見做シ其ノ從軍者ヲ外征從軍者  
トシテ取扱フモ敢テ不都合ノ虞無之  
ニ付具申ノ通閣議決定相成可然ト認  
ム

陸海軍省ハ通牒

各府縣知事、各府縣知事ハ通牒

各府縣知事ハ通牒

明治三十二年四月廿九日



法部省  
文書  
部  
文書  
部  
文書  
部

Blank lined area for text on the right page.

法部省第一三七号

215 102

右側一

左

別紙臺灣總督府中臺灣島之文武、  
職ヲ奉スル者事平定ニ至ルマテ外征從  
軍者トシテ取扱ノ件ハ軍中ノ通ニシテ然  
ヘシト局議決定此後及具申也

明治二十八年七月十日

臺灣事務局長德武伯爵伊藤博文



内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿



官第三四号

日清兩國間平和既ニ面復シ臺灣島、受授ハ  
完了ヤリト雖本島、形勢ハ恰モ一敵國、如ク  
清國、將卒ハ淡水三貂灣ニ於テ我兵ヲ射撃  
シ又金蛟將基隆等ニ於テ頑固ナル抗敵ヲ為セ  
リ而シテ南方安平打狗等ニ於テ我軍艦ヲ屢  
砲撃シ又新竹以南ハ尙夥多、殘留清兵充  
満スルヲ以テ今後幾多、戰鬪アルヲ免セス故ニ名  
義上ヨリ言ハテ臺灣ハ既ニ帝國ノ新領土ナリト雖  
實際ノ狀況ハ外征ニ於テハ異ナルヲモテ故ニ本島  
ニ於テ文武、職ヲ奉スルモノハ其平定ニ至ルマデ總  
テ外征從軍者トシテ諸般ノ取扱相成度此段



軍中候也

明治二十八年六月十九日

臺灣總督子爵樺山資紀

內閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

法部省第四四号

陸軍省送甲第一五一號

弘清事件ニ関シ内國ニ在テ諸般ノ軍務ニ係シ  
タル軍人ハ直接戦闘ニ参列セスト雖モ其  
功績少ナカラサル者ニ付特ニ恩給法第二  
十一條第五項ニ依リ從軍年加算相成  
度別紙勅令案并理由書ヲ具シ閣議ヲ請  
フ

明治廿八年八月八日

海軍大臣侯爵西郷從道



陸軍大臣侯爵大山 巖

巖